

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年10月1日発行 No.81

『モーセは主に言った。「あなたは、なぜ、僕(しもべ)を苦しめられるのですか。なぜ、わたしはあなたの恵みを得ることなく、この民全てを重荷として負わされねばならないのですか。』

(民数記 第11章11節)

<その暑さは殺人級!? しかし有意義な学びが与えられたヒロシマ平和旅考 2018 を報告!!>

後期が始まり、今日から10月。朝夕が随分と涼しくなりもう秋の訪れを感じますが、皆さんはこの夏をどう過ごされましたか? 私の中で強く印象に残るのが8月4~6日にかけて行われた「ヒロシマ平和旅考 2018」です。大学チャプレンとして17名の学生を引率し、3度目の参加でしたが、特に今年は日本列島を2つの大きな高気圧が覆った事から、例年に増して暑さの厳しい3日間でした。

平和記念公園内にはたくさんの碑があり、その一つひとつに異なる苦しみや悲しみが刻まれています。また平和記念資料館には、73年前の惨禍から生み出されたものが多く展示されていました。それらの展示品には、見る者に無言で語り掛けてくるメッセージがあります(事実、留学生を中心とした多くの参加者はそれらの前で歩みを止めて見入っていました)。

私はここに広島を訪れる大きな意味を感じます。戦争は映画や映像のスクリーンの中の話ではなく、実際に生きている私たちの命を驚掴みにし、根こそぎ滅ぼして行く。現代社会ではそのような恐ろしさを踏まえない無自覚の中から、確実に戦争の足音が忍び寄って来ているように思います。しかし今回出会った参加者の表情、一人ひとりの真摯な眼差し、そこから確かな平和への歩みが始まるようにも思います。暑さの厳しいヒロシマを経験する。八代学院が取り組んでいるこの小さな夏の学びが、世界平和へと繋がるよう、心から願っています。



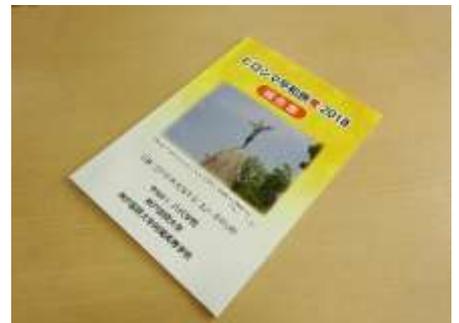
様々な国から集まった 17 名!!



泉の前で記念撮影 しかし暑い!!



原爆の惨禍を伝える展示品に絶句



カリック主催の平和行進に参加 教会の原爆逝去者礼拝にも出席 皆の学びを集めた報告書を無料配布中
〈先週のメッセージ〉 ※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

9月24日(月) テーマ:「今、この時にこそ」 野間 光顕(チャプレン)

今日から2018年度後期が始まるが、過ぎ去った夏を想う時、特に印象深いのが、先週末に行われた神戸国際大学創立50周年記念式典についてだ。神戸バプティストホールを会場に、そこに多くの来賓・関係者ら約300名が集い、創立50周年を盛大に祝った。式典の第一部は礼拝形式で行われたが、特に注目したいのが、前田理事長の説教だ。KIUは、他大学のように海外の教会や宣教団体の支援を受けずにその足跡を刻んできた。大学としての規模は小さいが、ここに学生や教職員一人ひとりに求められる大切な生き方、即ち「自分の足でしっかりと立つ事」が示されている。新学期が始まるこの時にこそ、今一度自分の足元と歩く姿勢を確かめたい。

9月25日(火) テーマ:「建学の精神と共に歩んだ50年」 前田 次郎(理事長)

先週の50周年記念で礼拝説教を担当したが、本学の学生にも意識して欲しいことを3つ挙げたい。1つ目は、本学創立者 八代斌助師父の想いだ。急速な経済発展の中で、苦境に晒される若者の命を大切にするため、本学は建てられた。次に、この学院は決して裕福ではなかったが自分の足で歩んできた。3つ目、50年を経て1万数千人に及ぶ卒業生は、それぞれの世界で「お前がいなければ困る」と言われるような存在感を発揮している。これは建学の精神「神を畏れ 人を恐れず 人に仕えよ」に依る所が大きい。これを覚え、主を見上げつつ歩みたい。

9月26日(水) テーマ:「礎の記憶」 近藤 剛(経済学部)

先週末、KIUの創立50周年記念式典が盛大に行われた。礼拝や記念講演会、また祝会など多くの企画があったがそもそもこの創立記念とは、「なぜKIUがあるのか?」「これまでをどう歩み、そしてまたこれからをどう歩むか?」を確認する為のものだ。今回、一冊の記念誌が発刊され、その編集に携わったが、そこで再確認させられたのはKIUの基礎となる部分、創立者の八代斌助師父の支柱に流れ、聖公会、またキリスト教に繋がる「愛」と「謙虚さ」だった。KIUに集う学生・教職員が、今一度この礎に立ち返り、新しい歩みを共に進めていきたい。

9月27日(木) テーマ:「ボランティア ~尾畠春夫さんから学ぶ~」 石原 正彦(キリスト教文化-主務)

この夏、山口県で行方不明の男子を発見したカヌーボランティア尾畠春夫さんが話題になった。彼は軽ワゴンに食料や水、寝袋を積み込み助ける側から一切の支援を受けない。「自己完結するのが真のボランティアだ」と語り、常に「させていただく」という謙虚さを持って物事に臨む。阪神淡路大震災以降、日本でもボランティアが注目されるようになったが、中には「モンスターボランティア」のように、やってきて被災地に迷惑をかける者もいる。被災支援のように特別でなくても、電車内で席を譲るなど、チャンスは日常の中にある。今日の聖書は有名な「善きサマリア人」、傷つき倒れる旅人の痛みを寄り添い、隣人に仕えるような生き方を実践できるようにしたい。

9月28日(金) テーマ:「自由とは」 下村 雄紀(学長)

みなさんは「自由」という言葉の英語が2つあることに気付いているだろうか? 答えは「Freedom」と「Liberty」だ。日本人の一般的な「自由」の印象は「Freedom」の方で、「束縛がない状態」という意味だ。では「Liberty」とどう違うのか? 「Liberty」はフランス語の「liberté(リベルテ)」から来たもので「束縛や束縛からの解放」という意味だが、これには束縛や制限から解放されると同時に自分の行動や発言に対する責任が生じる。「自由」はよく「自分勝手」と勘違いされるが、そうではない。本当の「自由」は、周りとの繋がりを重んじ、自らの責任を自覚する所から始まる。KIUの学生には、真の「自由」を謳歌して欲しい。

(文責：野間 光頭)